

桑名市議会議長
渡邊 清司 様

第2班 班長
伊藤 研司 印

議会報告会実施結果報告書

開催日時	令和元年 6月 7日(金) 18時 30分 ~ 20時 00分			
開催場所	久米まちづくり拠点施設			
出席議員	班長	伊藤 研司		
	司会	松田 正美	記録者 水谷 真幸	
	森下 幸泰		森 英一	満仲 正次
	市野 善隆			
参加人数	13 人			
議会報告の概要	<ul style="list-style-type: none">・開会挨拶・各議員紹介・市議会だより(2019年(令和元年)6月1日号)の説明 予算内容の説明 主な事業の説明 二つの附帯意見の説明 新年度予算の審議の説明・質疑応答			
主な意見・要望	意見交換については、別紙参照			
備考				

議会報告会記録

【第2班】

開催日時	令和元年 6月 7日 (金) 18時 30分 ~ 20時 00分	
開催場所	久米まちづくり拠点施設	
参加人数	13人	
議会報告に対する質疑応答	質 問	回 答
	伝馬公園について。福祉ヴィレッジの建築予定地は標高の低いところにある。地震や津波のことを考えると、高台に移設していかなければならないのではないかと聞いている。桑名市の方で居住区をまとめていくことを考えていると聞いている。そう考えると、大山田地区など標高の高いところに移転していくことが必要なのではないか。	今の4施設があるところに比べると、伝馬公園の敷地の方が標高が高い。伝馬公園に建築する際に、3階建なら大丈夫だろうと市側の予想があり、また、保育所を日進地区に残すということも重要であると考えていたが、機能を分割しての改築というご意見があることも認識しており、利便性や防災のことも考慮していきたい。
	長島地区にも防災タワーなど高いところを整備しようとしているが、今回の伝馬公園への福祉ヴィレッジ建設計画に関しても、周辺一帯が高くなると浸水時に孤立してしまう。福祉ヴィレッジも緊急の防災拠点として役割を担えるか疑問である。	緊急の避難所の機能を持たせようということである。
	今年の4月から社会福祉協議会に生涯学習部門が新設された。そのことによって、今まで社会福祉協議会でしてきた事業についてなかなか理解が得られないと感じている。そのやり方に対して適切かどうか。	私見であるが、市長の意向により、ボトムアップ式の副市長をすえて、そういう議論をし当局も変わろうとしている。副市長が代わったことによって、役所の中も変わっていくと思う。
防災と言われるが、防ぎきれないので、減災を考えなければならない。地震については、防ぎようがない。そういう	昔は、役所の中にも、地べたを這いずって現場に行っていた人もいた。今は国や県からの資料で勉強している。古文書から拾	

	<p>できないことは住民にはっきり伝えなければならない。 今年4月にハザードマップを出しているが、防災マップではなく、想定災害マップである。防災は現実的ではない。 どのように対応すべきかを考えるべき。 桑名市での災害の履歴がわかるようにしてほしい。大山田地区は新興住宅地であり、次世代に災害の情報が引き継がれていかない。今はコンピュータを使って記録して、職員が異動しても引き継いでいける。安全と危険の見分け方は学術的などころを勉強すればわかる。桑名市役所に言っても相手にされないということは住民に届かない。 自助共助は、災害が起きてからの話。減災にするにあたっては事前の知識が大事である。いなべ市や四日市市ではそういうことをわかっていただけ。 地盤のリスクについて、朝日新聞で出ているが、桑名市は地盤の対策が遅れている。 内水排水地域は浸水して当たり前の状況になっている。 2014年ごろのパンフレットには、「洪水から街を守ります。」とあるが、既存の水路整備はしているが、雨水管の整備なんてやっていないのではないか。ちゃんと委員会で論点を決めて、まとめていかなければ防災などできない。</p>	<p>い出すというのもしやってみないとないと思いましたが。現地の状況を吸い上げて、政策に移すシステムになっていない。</p>
	<p>いとも簡単に防災というが、中身のない政策はやめてほしい。</p>	<p>今、役所も変わり始めているので、もう少し待つてほしい。</p>
	<p>もう少しというのは、逃げ口上である。 防災は工学的な対策が必要であり、事務方には技術的なことが伝わらない。</p>	
	<p>防災マップは桑名市全体が載っておらず、自分の住んでいる地域が載っていない。</p>	

	<p>どこが危険か安全かわからないので、桑名市役所防災・危機管理課に行って聞いたみた。</p> <p>国土地理院の昔の地図を見ないとわからないので、それを見なければならぬと言われた。</p> <p>防災というのは、市の責任である。自助の宣伝をしなければならない。まずは、自分の力で防災できるように、宣伝をしてほしい。</p>	
	<p>赤尾台は高台なので、一番怖いのは、火災であるが、消火栓ボックスがない。給水塔のところが地震で倒壊すると、水が出ない。</p> <p>グループウェアのようなインフラを整備してほしい。地域団体に連絡するとき情報伝達できるようなシステムを桑名市で整備してほしい。災害の情報などもそういうグループウェアで共有すればいいのではないか。</p>	<p>回覧の負担も軽減できるので、効果的であると思うが、一般的に高齢世帯においては、ICTに精通していない方もいらっしゃることを懸念している。</p>
	<p>一部の方ができないからといって、やらないのではなく、導入してその少数の意見に対応していくべきである。</p>	
	<p>高齢者は、携帯電話とかパソコンとか持っていない人もるので、ツールといわれても難しい。</p> <p>木曾岬町は太陽光発電パネルがあるが、津波が来たときにどこに流れるか心配である。今の道路状況で津波が来たときに逃げられるだろうか。</p> <p>坂井橋付近で住宅が建設されているが、越水の怖さを知らないのではないか。</p> <p>防災などは知識が必要であるが、職員は2、3年で異動してしまう。</p> <p>専門的なところがわかるような人員配置が必要である。</p>	<p>少しずつ役所としても電子化は進んでいるが、先ほどのような意見もある。しかし、今後、電子化は進展していくのではないか。</p> <p>豪雨など冠水時、職員が現場に行っていない可能性もある。</p> <p>職員がそれぞれの排水処理区域、河川の状況をイメージして判断できるかが重要である。</p>